

ゴールド二十世紀(ゴールドにじゅっせいき)

登録番号：第2932号

育成者：西田光夫 藤田晴彦 池田

登録年月日：平成3年12月16日

富喜夫 真田哲朗 壽和夫

登録者：農業生物資源研究所（つくば市観音台2-1-2）

来歴：「二十世紀」のガンマ線照射による人為的突然変異体。

特 性

■栽培特性

黒斑病抵抗性を獲得した、「二十世紀」の枝変りで、実験室内で人工的に黒斑病菌を接種すると、黒斑病に抵抗性の「長十郎」と罹病性の「二十世紀」との中間的な抵抗性を示す。圃場条件下ではまれに黒斑病が発生するが、病斑はあまり拡大しない。感染しても葉の病斑はやがて灰白色化し、病斑部分が脱落することもある。このために、「二十世紀」ではしばしば激しく落葉するのに対し、本品種ではほとんど落葉がみられない。果実にもまれに発病するが、被害率が低く、また発病果であっても裂果や腐敗はほとんどみられない。

黒斑病抵抗性以外の特性は「二十世紀」とほぼ同じで、花粉は健全で量も多く、種子の形成にも問題はない。自家結実性は低く、「二十世紀」とは相互に交配不和合性であるが、「幸水」、「長十郎」、「翠星」等とは交配和合性である。

■果実特性

「二十世紀」とほぼ同じ特性を示す青ナシで、果実品質にはほとんど差がみられない。黒斑病抵抗性であるために、無袋栽培が可能であるが、無袋では「二十世紀」と同様に果面にさびが発生し、外観が劣る。有袋栽培の場合には、大袋を1回掛けるだけで果実外観の向上が期待できる。

収穫期は「二十世紀」に比べてやや遅れる傾向が認められるが、関東地方で9月下旬、東北地方でも10月上旬までには収穫が終わるので、とくに問題にはならない。

■栽培上の留意点

本品種は「二十世紀」の枝変りであり、確率はきわめて低いが、先祖返りを起こして元の「二十世紀」のように罹病性になる可能性が残されている。このために、普段から注意深く観察し、発病の激しい枝を見つけた場合には、直ちに切除しなければならない。

本品種は「二十世紀」よりはるかに黒斑病に強く、もし発生しても被害程度は軽い。しかし本質的には本品種にも黒斑病が発生する可能性が残されているので、園内の黒斑病菌の密度を低く抑えるような栽培管理が必要である。

■地域適応性

地域適応性については、現在も検討中であるが、本品種は「二十世紀」の枝変りであることから、「二十世紀」と同様の地域適応性を示すものと考えられる。

(壽 和夫)